

陳 情	受 理 番 号	146	受 理 年 月 日	令和 2 年 8 月 28 日	付 託 委員会	厚生経済
件 名	65 歳以上高齢者への歯科保健推進に関する陳情					

65 歳以上高齢者への歯科保健推進に関する陳情

「人生 100 年時代」を迎えた現代、それを支えるのが「食べる力」です。

「食べる力」が衰えると心身の活力の低下につながります。「食べる力」を維持するためには、口腔の器質的かつ機能的な健康の維持が不可欠です。口腔の器質的な健康の維持とは、歯の健康すなわち、むし歯と歯周病の予防です。歯の根を覆っている歯ぐきは、加齢とともに下がっていきますが、歯周病に罹患している場合には、より大きく下がっていきます。歯ぐきが下がると歯の根元が見えるようになりますが、根元の部分はむし歯が進行しやすい部位なので、その部分のむし歯予防が極めて重要です。このようなむし歯を「根面う蝕」と言いますが、60～78 歳の高齢者 278 人を対象としたある疫学調査では、その発症率は 53.3%であったと報告されています。さらに重要なことは、「根面う蝕」が「部分義歯」（部分入れ歯）を支えている歯に多く発生する傾向があるということです。「部分義歯」を支える歯には義歯が動かないように金属の針金がかけてあり、むし歯の原因となる歯垢がつきやすいためです。

部分義歯を使用している方は、65～69 歳で 31.0%、70～74 歳で 38.2%、75～79 歳で 41.7%、80～84 歳で 42.4%、85 歳以上で 46.3%（平成 28 年歯科疾患実態調査）であり、前期高齢者の 3 人に 1 人、後期高齢者の 5 人に 2 人が何らかの部分義歯を入れていることとなります。この「部分義歯」を支えている歯をむし歯や歯周病から守るような適切な管理を行わなければ、いずれ歯が折れたり抜かざるを得なくなってしまうため、入れ歯が合わなくなり、「よく噛めない」「入れ歯が合わず違和感が大きくて使わない」などの理由から「食べる力」を維持することができなくなります。これは介護予防の観点からも非常に重要です。

「食べる力」を維持するためには、むし歯、特に「根面う蝕」の予防と歯周病の予防の実践が重要です。その「根面う蝕」は、歯磨きに加え歯質を強化するフッ化物の塗布も有効だという報告もあり、「健康那覇 21」でも記載をされている高齢者へのフッ化物の応用が必要になってきます。「人生 100 年時代」を迎え「食べる力」を維持するためには、高齢者へのフッ化物の応用と年 2 回以上の定期的な歯科健診が推奨されています。特にこのコロナ環境下であれば、歯科通院を含む外出も控える市民も多く、口腔状態の悪化も懸念されており、行政が重症化する前に積極的に口腔環境の健全化のために支援をしていただきたいと思います。「食べる力」が維持できなくなるという口腔状態の著しい悪化は、その改善に多額の医療費と健康保険負担が出ることになり、家庭経済によっては健康格差の原因にもなりかねません。

そこで、65 歳以上の市民健康を確保するためにも下記の事項の実施を要望いたします。

記

1. 高齢者へのフッ化物塗布に関する補助事業の実施
2. 高齢者の定期的（年 2 回以上）な歯科健診事業の実施